



西川中学校
体育祭(16ページ参照)



西川町 議会だより

2009.10.15

70

- ・9月定例会 2~6
- ・一般質問 7~12
- ・議会のうごき 13~15
- ・「究める・人」シリーズ No.10 山ぶどう栽培 16

発行 山形県西川町議会

平成20年度決算

一般会計、特別会計、病院・水道事業会計

65億円の成果を認定

未来の西川を託して教育費に9億円

一般会計、特別会計決算状況

会 計	収入決算額	支出決算額	差引残額	採決の結果	
一 般 会 計	47億2675万円	46億2797万円	9878万円	賛成6人 反対3人	
特 別 会 計	国民健康保険 事業勘定	8億513万円	7億1797万円	8716万円	賛成8人 反対1人
	国民健康保険 施設勘定 (水産試験場)	335万円	329万円	6万円	
	老人保健	7027万円	6782万円	245万円	全員賛成
	簡易水道	2983万円	2222万円	761万円	全員賛成
	路線バス事業	6455万円	6455万円	0万円	全員賛成
	公共下水道事業	3億7696万円	3億7671万円	25万円	全員賛成
	農業集落排水事業	2721万円	2719万円	2万円	全員賛成
	寒河江ダム周辺施設管理事業	389万円	362万円	27万円	全員賛成
	後期高齢者医療	7082万円	7044万円	38万円	賛成8人 反対1人
	介護保険	6億670万円	5億9728万円	942万円	全員賛成
宅地造成事業	0万円	0万円	0万円	全員賛成	
合 計	67億8546万円	65億7906万円	2億640万円		

※金額は、すべて万円未満を四捨五入して表示しています。

病院・水道事業会計収益的収入および支出決算状況

会 計	収益的収入	収益的支出	差 引	採決の結果
病院事業会計	7億4950万円	7億4054万円	896万円	全員賛成
水道事業会計	1億2610万円	1億2078万円	532万円	全員賛成

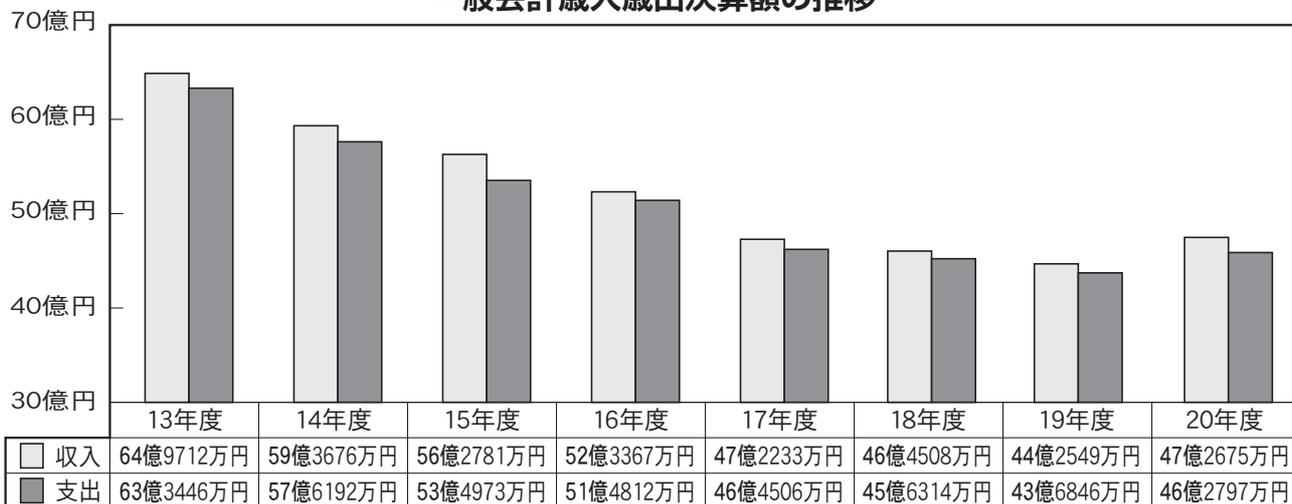
※金額は、すべて万円未満を四捨五入して表示しています。

9月3日から11日までの9日間、平成21年第3回9月定例会を開き、平成20年度の一般会計、10の特別会計、病院および水道事業会計の決算を認定したほか、請願1件を採択しました。また、町長が提出した教育委員会委員等の人事案2件と消防ポンプ自動車購入契約の議案、国民健康保険条例の一部を改正する条例案を原案のとおり可決、さらに、4803万円を追加し、総額を55億9564万円とする一般会計補正予算案など、補正予算案9議案を全員賛成で原案のとおり可決しました(6ページ参照)。

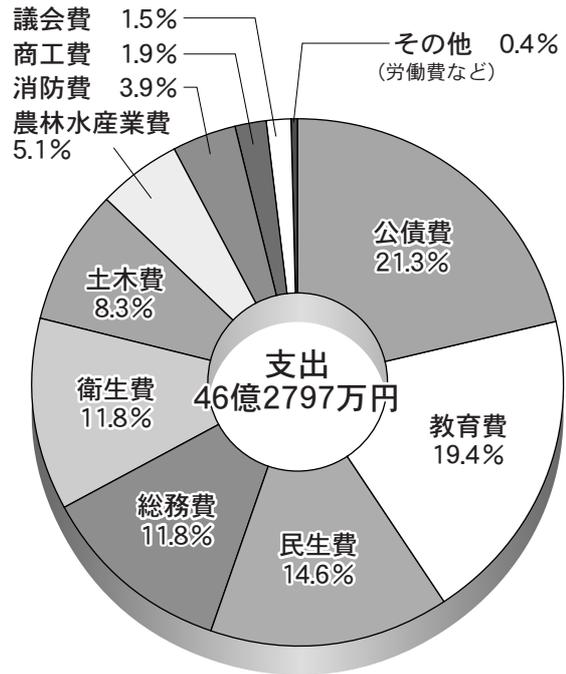
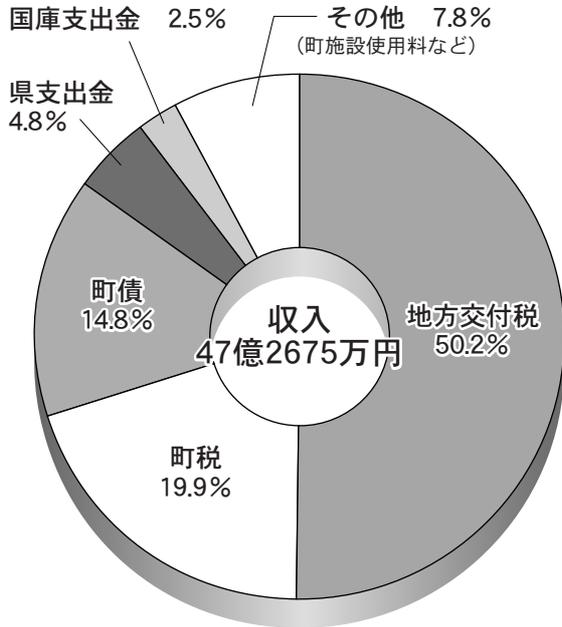
定例会ではこのほか、平成20年度の財政状況を示す健全化判断比率および資金不足比率の報告(6ページ参照)など2件の報告がありました。

一般質問では、6人の議員が町の政治・行政について町長の施政方針をただしました。

一般会計歳入歳出決算額の推移



一般会計決算構成比



町の借入金の残高 (平成20年度末)

63億8680万円

(特別会計、水道および病院事業会計を除く)

町民1人あたり95万円

(平成19年度末では96万円)

賛成

青山 知教

◆将来に向け堅実な財政運営

経済危機に伴い、多くの地方自治体が厳しい財政運営を強いられているなか、本町では、必要な事業等を確実に実施し、着実な進展が図られました。

財政面では、町税等の収入が減少しましたが、諸経費の節減に努め、経常収支比率、健全化判断比率ともに改善され、将来に向け堅実に運営されました。

事業面では、第5次総合計画の中期実施の時期に入り、農商観光業、教育等、それぞれの事業が実施され、また、繰越金から2千万円が積み立てられました。自立と協働のまちづくりが実践されたと評価します。

討論

一般会計決算

反対

池上 博

◆西川小学校建設地の進め方が問題

町では、西川小学校建設地が防災上、大きな問題があるとする町民の意見に耳を傾けることなく進めたことについて、誠に遺憾です。

特に、県知事ミーティングでも、参加者の発言に、町民の理解のなかで進めていくべきとする県の見解に対し、町はなんら応えていないことは重大です。

また、雇用促進住宅睦合宿舎について、緊急を要する定住人口の維持確保を図るためには購入が欠かせません。しかし、購入しないとする町の方針は問題です。

質疑 応答



決算特別委員会
委員長 古澤 俊一



一般会計

総務企画課担当事務事業

Q IJUTAの取り組み状況は。

A ふるさと回帰フェアへの出展、移住専門誌への情報提供を行っているほか、総務省や移住・交流推進機構のホームページに情報を掲載しています。平成19年度から問い合わせが増え、年間8、9件あります。今年、1世帯定住しました。

Q 地域支援職員派遣の評価は。

A 宮城大学にお願いして、課題の見出し方と対応の仕方を教えていただくなどして質の向上に努めています。今後とも、地域のみなさんができる範囲内で積極的に支援していきます。

Q 水沢および大井沢温泉館、水の文化館、月山湖大噴水、老人福祉センター、町民スキー場などの管理委託料の経費が増えています。検証は。

A 老朽化に伴い修繕経費がかかっています。今後、それぞれの施設の目的を考慮しながら、

存続等について検討しなければならぬと考えています。

Q 人口を集積する拠点地形成と今後の地域のあり方の位置づけは。

A できる限り町内に住んでいただきたいという意味で住宅団地を造成しており、地域の方を積極的に誘導することは考えていません。町内外に利便性をアピールしていきます。

Q 月山朝日自然学園の取り組み状況は。

A 町を一つのフィールドにして、観光もあわせた自然学習や体験をするために調査、研究しています。

Q 六十里越街道の今後の効果は。

A 将来的に歴史学習や観光に結びつけていきたいと考えています。

Q 一極集中型の人口集積地の造成より地域の発展が基本では。

A 子育てなどの環境に適したところに造成しますが、集めていくんだということではありません。

Q 雇用促進住宅睦合宿舎を購入すべきでは。

A 必要性を否定しませんが、住宅団地の造成で定住化を図ります。

Q 西川小学校建設や雇用促進住宅睦合宿舎の取り扱いでアンケート調査が必要だったのでは。

A 西川小学校建設については、検討委員会や地域座談会を経てここに至っています。

町民税務課担当事務事業

Q 山交バスの路線バスの乗客数および今後の路線の存続は。

A 平成19年度は9372人、20年度は8202人で1170人減少しましたが、高校通学も含め需要があり、存続していただけと考えています。

Q 住宅用太陽光発電の現状と見通しは。

A 降雪が多い本町では投資分を回収するのに時間を要しますが、今後、環境対策で技術水準が高まり、低コストになれば利用も増えると考えています。

Q 町税等の滞納対策として生活相談も進めていくことが大事なのでは。

A 平成21年度、対応することにしており、検討しながら進めていきます。

健康福祉課担当事務事業

Q 保育士の臨時職員が多くなっていますが、年間約180万円の賃金に対して、勤続年数を重ねた正職員の賃金は。

A 20年勤続で約500万円です。

Q 平成18年に障害者自立支援法が施行されて変わったことは。

A 一割負担になったほか、在宅支援の判定が変わりました。

Q 子育て支援医療の一部負担を他の市町村並みに廃止すべきでは。

A 公平性、平等性を考えながら平成22年度の予算編成に向けて検討します。

Q 戦没者追悼式の内容が質素になっていないのでは。

A 十分に心を配っていますが、平成22年度、内容を検討します。

決算特別委員会

産業振興課担当事務事業

Q ブライダルサポート事業の支出額がゼロで、看板倒れでは。
A 今後、積極的に進めていきます。

Q 月山ふるさと大使の効果は。
A 4人の方を無報酬で委嘱しています。本町に適した力ボチヤの種の選定、間伐事業の実施、首都圏の消費状況の情報提供などで活躍いただいています。

Q 総合産業化をめざして事業を展開していますが、農業振興や林業振興の事業の一元化が図られていますか。また、町民の所得向上に結びついていますか。
A 農協、森林組合、商工会および西川町総合開発(株)等で産業振興地域協議会を立ち上げて、かかわり合いをもちながら事業を進めています。また、本町の少量多品目の農産物の流通について、首都圏の卸問屋と協議するなどして所得向上をめざしています。

Q 中山間地域等直接支払の2期対策が平成21年度で終了しま

すが、存続を強力にはたらきかけるべきでは。
A 政権が交代し不透明な部分がありますが、全国的に要望は高く、3期対策の検討は十分にされています。

Q 仁田山放牧場の観光化をめざして取り組みべきでは。
A ベゴっこ館を活用しながら体験ができる放牧場として、恒常的なバーベキューや教育旅行体験での取り組みなどを検討しています。

Q 月山や朝日連峰の美化を進めていくうえで問題は。
A 登山者等が増えているなかで、現地に指導員を配置して取り組んでいます。

Q 森業・山業創出支援事業の取り組み内容は。
A 新たな産品の創出や市場外流通を図りながら、物流も含めた都市との交流で所得向上をめざしています。

建設水道課担当事務事業

Q 都市計画法にかかわるもの

に限らず、土地利用が大きく変わる計画でも都市計画審議委員の意見を聴くべきでは。
A 議会での協議を考えています。

Q 月山銘水館の除雪費を町が全額負担していますが、西川町総合開発(株)にも応分の負担を求めべきでは。
A 道の駅の機能や路線バスの通路を確保するために、以前から負担しています。

Q 全国学力テストの結果、成果は。また、結果の公開は。
A 小学6年生および中学3年生を対象に国語および算数または数学で実施しています。結果を詳しく分析しながら活かしていく手立てをとっています。活用は全国的な課題になっています。公開はすべきでないと考えています。

教育文化課担当事務事業

Q 今夏120人が訪れた本道寺のプールの存続を。
A ろ過機がさび付き循環不能になっており、今後、対応を検討します。

Q 丸山薫少年少女文学賞で一般の方からも募集すべきでは。
A 審査員の対応も含めて検討しなければならず、一般の方には、自然散策をしながら詩に親しんでいただきたいと考えています。

討します。

Q 丸山薫少年少女文学賞で一般の方からも募集すべきでは。
A 審査員の対応も含めて検討しなければならず、一般の方には、自然散策をしながら詩に親しんでいただきたいと考えています。

国民健康保険特別会計

Q 保険料の半分以上を基金に積み立てていることが理解できませんが。
A 将来も健全な財政を維持するために欠かせません。

路線バス事業特別会計

Q 200円の均一料金が見直しの時期にきているのでは。
A 検討しますが、導入の背景も尊重しなければならないと考えています。

第3回 9月定例会 決まった おもなこと



人事

◆教育委員会委員

長登恵子さん

平成5年10月1日に教育委員会委員に就任し、6年10月1日から15年間で、委員長を務めた渡邊賀三さん（間沢）が任期満了で退任し、新たに委員に長登恵子さん（睦合）が賛成多数（賛成7人、反対2人）で選ばれました。

◆固定資産評価審査委員会委員

秋山昌幸さん、佐藤勝男さん

任期満了に伴う固定資産評価審査委員会委員には、秋山昌幸さん（海味）、佐藤勝男さん（入間）が全員賛成で再任されました。

契約

◆消防ポンプ自動車購入契約を締結

昭和62年に睦合消防団に配備された消防ポンプ自動車の老朽化に伴う購入契約の締結につい

て、全員賛成で次のとおり決まりました。納入は平成22年3月の予定です。

金額 1648万5千円
相手方 (株)長谷川ポンプ製作所
山形市銅町一丁目6番59号

条例

◆出産育児一時金を引き上げ

国民健康保険条例の一部が全員賛成で改正され、今年の10月1日から平成23年3月31日までの間に出生したときに国民健康保険から支給される出産育児一時金が、35万円から39万円に引き上げられました。

この結果、出産した医療機関が産科医療補償制度に加入している場合、42万円の出産育児一時金が支給されます。

補正予算

◆子育て応援特別手当（平成21年度版）を支給

平成15年4月2日から18年4月1日までに生まれた子どもを対象に、子育て応援特別手当が

支給されることになりました。対象となる子ども1人に3万6千円が支給され、町では、12月に申請を受け付ける予定です。

◆海味第3町内会館改造に補助

海味第3町内会館の改造工事に200万円を補助することになりました。

海味第3町内会館は、昭和49年に建設された木造モルタル2階建てで、町内会および区等が設置している集会施設の建築または改造を対象とした町の公民館等施設整備費補助金として交付されます。

◆町立図書館の図書を購入

ライオンズクラブ国際協会332複合地区ガバナー協議会（議長 阿部幸一さん）から町立図書館に100万円が寄附され、図書を購入することになりました。

請願採択

◆政府備蓄米をルールに基づき買い入れることを求める請願書

提出者

農民運動山形県連合会

会長 花鳥賊 義廣

紹介議員 渋谷 雄二郎

平成20年度 健全化判断比率 および資金不足比率

財政指標が公表され、次のとおりで、健全段階にあります。

・実質公債費比率（※1） 20・2%

・将来負担比率（※2） 92・0%

用語の説明

※1 実質公債費比率
借入金の元利償還金と、それに準じた経費の比重を示す比率で、25%までが健全段階といわれています。

※2 将来負担比率
借入金の元利償還金の残高のほか一般会計等が将来負担すべき実質的な負担を捉えた比率で、350%までが健全段階といわれています。

住宅用火災警報器設置の行政支援と 自主防災組織の整備促進

町長…平成22年度予算で検討し、有事の際に機能する
防災組織の育成が必要です



宮 林 昌 弘 議員



火災警報器

住宅用火災警報器の全戸設置が平成23年5月31日まで義務化され、未設置住宅に対する行政支援と地域自主防災組織の整備について質問します。

本町の現時点での既存住宅の火災警報器の設置状況を把握していますか。調査したものがあれば、お示しください。

把握できていません。現在実施している町民アンケート調査で実態を明らかにしたいと考えています。なお、住宅の新増築時に提出する建築確認申請で把握している数は、33世帯です。

本町の高齢化率は県内トップで、一人暮らし世帯は16.8%、老夫婦世帯は26.5%と増加しています。

生活保護世帯や低所得者層（一

人暮らし老人世帯）に行政支援をする必要があると考えますが。

必要性は理解できますので、町民アンケート調査の結果を分析し、平成22年度予算編成に向けて検討していきます。

本町の地域防災計画にある町内各地区の自主防

災組織の育成強化を図り、災害時の自主活動を実践するために、町内会を単位とした組織化を進めるためのマニュアルづくりと行政指導による組織化促進、さらには地域防災意識の高揚を図るべきと考えますが。

自主防災組織は、災害発生時に住民の安全を確保する有効な体制だと認識していますので、町内会が自主防災組織として位置づけられている現状

から、有事の際に機能する組織体制に育成していく必要があると考えています。

具体的には、県から土砂崩壊危険箇所地域指定が行われたところから、地域のみなさんと相談しながら組織づくりを進めていきます。



平成21年度山形県消防協会西村山支部
消防操法大会で優勝した水沢消防団

きれいな水を守り 災害を防ぐ森林の整備を

町長…各区、森林組合と再生林を協議します



間伐作業



松田昌一 議員

西川小学校建設に町内産木材を使用することで、木材界は活気を取り戻し、西村山地方森林組合で購入する立木は、材積で1万2千石、面積で14ha、金額では1300万円となっており、林業の活性化に大きな効果があると考えています。

一方、本町は水源の町で、寒河江ダムから県の人口の半数に匹敵する人々に水が供給されています。また、寒河江川は清流日本一になったこともあり、きれいな水を守り、洪水や土砂災害を防ぐために、健全で活気ある森林が必要です。

森林の整備と小学校建設のために伐採したところの植林が必要と考えますが。

町営造林の新植については、整備状況を踏まえて当面控えることとしていますが、皆伐された地区の大半が再生林を希望していますので、再生林について、各区および森林組合とも協議のうえ調整し

ていきます。

8月中からナラ枯、ブナ葉虫の被害による枯葉紅葉が全県で広がっていますが、本町の被害状況と対策は。

ナラ枯は、昨年度は少数でしたが、本年度に入って町内全域で確認されており、9月中旬に実態調査を行います。

ブナ葉虫は、昨年度から本町でも確認され、今年も月山山系を中心に被害が広がっています。樹木本体の成育を阻害するものではないとのことであり、これまでの事例では数年ごとの発生であったことから経過観察の必要があると考えています。

若者が住みなくなる元気なまちづくりのために、子育て環境の整備充実が欠かせません。子育て支援センター拡張に2400万円が予算化されましたが、利用状況は。

平成20年度の年間利用者は5894人で、開設日1日あたり約27人です。本年度も多い日には50人に達した日もあり増加傾



子育て支援センター

向にあります。部屋の拡張やトイレ、手洗い、出入り口等を整備し、子育ての拠点として機能の充実を図ります。

保育園の待機児童と事故発生状況は。また、近隣市町と比較して保育料はどうか。さらに保育士の正職員と臨時職員の給料の差は。

待機児童はいません。事故の状況は、過去5年間で骨折や打撲等9件あり、注意しています。保育料は、所得階層で異なり単純に比較できませんが、近隣市町では中位と考えています。保育士の給料の差は、新採との比較で年間約60万円です。

今夏の相次ぐ脅威的な 自然災害をどう捉えるか

町長…県の土砂崩壊危険箇所指定後にハザードマップを作成します



池上 博 議員



西山小学校避難訓練

7月21日の集中豪雨、猛烈な土石流で山口県防府市の特別養護老人ホームが瞬時の大惨事。7月26日の九州地方の集中豪雨で甚大な被害。8月9日、兵庫県の佐用川が想定外の5mの水位となり避難勧告の遅れで多くの尊い人命を失い、さらに2290人の避難者が出て、その避難先はやはり小中学校。8月11日には静岡県で震度6弱の地震が発生、東名高速道路が大崩壊し重なり路肩が大崩壊し交通機関に深刻な影響を及ぼす。

気象学者は、このような災害は日本列島どこでも起き得ると言いますが、これらの災害をどう検証していますか。また、想定外の大災害を考慮すれば、行政は人命財産を守るために直ちにハザードマップを作成すべきと考えますが。

各種の警報が発令された場合には、職員が待機して情報管理を行い、人命に影響が出る恐れのある場合には、町長が速やかに「避難準備情報」「避難勧告」「避難指示」を発令する体制をとっています。

ハザードマップについては、総合的なものを県の土砂崩壊危険箇所の地域指定後に作成していく予定です。

町では、西川小学校を避難場所にするとしていますが、周辺の多くの方は西川小学校が適当と考えています。避難勧告を判断できる量水標の設置が必要と考えますが。

西川小学校が完成した時点で、第一次避難場所に指定することになります。災害の種類や規模および発生場所によって、避難場所は変化するものでありますのでご理解ください。

寒河江川の警戒体制については、最上川ダム統合管理事務所と常に連携をとって対応していきます。

本町では、既に災害時要援護者避難支援プランの個別計画まで作成していますが、この計画が機能するためには、地域の自主防災組織の育成と連携が必要と考えています。

町民体育館の耐震診断の結果は、また、重要な避難場所であり、早急な対策が必要と考えますが。

診断結果では、このままでも使用は可能のようでしたが、接合部分等一部補強すべきとのことですので、体育館全体の修繕費用も勘案しながら今後の対応を決めていきます。



町民体育館

大井沢自然博物館、 自然と匠の伝承館の運営状況は

町長…これからも交流・連携事業での利用拡大を図ります



ふるさとめぐり学習事業(自然と匠の伝承館)



佐藤 征男 議員

大井沢自然博物館、自然と匠の伝承館の入館者数が大きく減少しています。原因をどう捉えていますか。

原因を特定することはなかなか難しく、様々な要因が重なり合っていると思います。特に8月の夏休み期間が大きく減少していますが、親子で大井沢を訪れる人が少なくなっているのではないのでしょうか。開館当初のものめずらしさも薄れており、

各種事業と

連携して利用拡大に努めることが大切と考えられています。

大井沢自然博物館には貴重な標本が多数あります。収蔵庫の拡充や空調設備、照明などを検討すべきです。

標本の収蔵庫や空調設備については、

今後の博物館の展示方法や展示物の更新とも関連がありますし、照明については、展示物の劣化防止のため調光していると聞いています。もう少し全体的な調査検討が必要と考えています。

自然と匠の伝承館は立派な施設です。巧人の公募や長屋門の利用など、機能を活かし充実した運営を願っています。

現に活動しておられる巧人が少なく、新たに公募ということもあるでしょうが、基本的には施設使用の許可条件を理解していただける方となりますので、町が巧人を抱えるということではありません。

長屋門の利用についても、以前には受付、物品販売を行って



自然と匠の伝承館

いましたが、諸事情により現在のような形態になりました。都市と農村の交流を図りながら地域振興に結びつけていくという施設ですので、ご提案を考慮しながら、さらに誘客に努めていきます。

子どもの医療費助成を 他市町村並みに拡充せよ

町長…平成22年度予算に向けて検討します



澁谷 雄三郎 議員



**医療費の無料、
低額診療に取り
組んでは**

町立病院の医療費の未納状況と対策は、

また、国民健康保険税の滞納状況は、さらに短期保険証、資格証明書の発行状況と対策は、新潟県加茂市では、保険証がなければ医療行為が遅れるなどの理由から資格証明書を発行していません。

町立病院の医療費未納額は、今年の8月31日現在で265万8千円、国民健康保険税の滞納額（過年度分）は、30世帯、1075万3千円です。短期保険証は14世帯に、資格証明書は7世帯に発行しています。

滞納者に対しては、町税相談員の配置、滞納対策会議、生活再建検討会議等、様々な対策を講じて納付をお願いします。

社会福祉法第2条第3項第9号では、医療費の無料、低額診療ができるようになっていきますが、どう捉えていますか。また、無料、低額診療に取り組む必要があると考えますが、

自治体病院の場合には、経営を圧迫してしまう恐れがあり、現在の制度内容では、取り組むことは難しいと判断しています。

**子どもの医療費補助は
一部負担をなくして
他市町村並みに**

7月7日の山形新聞の記事では、他市町村に比較し本町の子どもの医療費無料の内容が極めて悪いと考えますが、また、他市町村並みに充実すべきでは。

子育て支援については、保健・医療・福祉・教育の総合的な捉え方が必要であると考えますし、基本的には全国同一水準が望ましいと思えますが、

国政、県政の今後の動向を注視しながら、本町としても平成22年度予算編成に向けた課題として検討していきます。

他市町村並みに一部負担金をなくした場合には必要となる財源は、

現制度で一部負担金をなくした場合の必要財源は82万8千円程度で、県内で子育て医療がもっとも拡充していると思われる水準までにするには、毎年512万4千円程度が必要と見込んでいます。



水沢小学校大運動会

鳥獣被害対策は

町長…猟友会や関係団体の協力を得て万全を期します



クマ出没注意のぼり



古澤 俊一 議員

平成18年の県内の
クマ捕獲頭数が
692頭（最大）

今年も新聞、テレビ等で多数のクマ出没が報道されています。県内のクマの生息数は平成13年で1500頭と推定されていますが、現在の状況は、

クマによる被害は、睦合・長登地内のさくらんぼ食害と樹木の枝折れ、目撃通報では、弓張平の県道横断等です。これまでの

有害鳥獣駆除等での捕獲頭数は、春のクマ猟を含めて9頭で、生息数は、目撃情報から増えていると推察されます。

痕跡も多い状況

クマの捕獲に鉄格子の檻を使用していますが、現在は移動放獣のためにドラム缶の檻を用いています。保有台数は万全で

すか。

クマ捕獲の檻は、目撃数ももっとも多かった平成18年に増設整備しており、県が新たに指導している移動放獣の檻が県から1基配備されます。平年ベースでは十分と考えていますが、移動放獣については検討の余地があります。

全国的に猟友会の会員が減少し、高齢化が進んでいます。山間地が多く観光の町でもある本町で、クマの人身事故を未然に防ぐために猟友会の存在は欠かせません。安全安心に暮らすために猟友会の要望にも応えるべきでは。

有害鳥獣対策には、猟友会の協力が欠かせませんので、さらに連携を図っていきます。猟友会では、檻設置の朝夕の管理見回りや、若年会員が少ないなど人的体制の問題、また相應の経費も必要であることなどから、関係団体と要望について検討、調整しています。

鳥獣に対する考え方は 地域で温度差あり

本町では目撃されなかったサル、サギ、カワ鷯などが近年、出没しています。被害が少ない初期の段階で有害鳥獣の撲滅対策を構築すべきでは。

鳥獣被害は、クマ、タヌキ、ハクビシン等が一般的でしたが、地球温暖化が現実的に影響しているのか、サギ、カワ鷯等の漁業被害や、被害までには至っていないもののサル、カモシカ等の目撃が多く、今後は被害状況の把握方法について検討する必要があります。



移動放獣用檻

議会のうごき



中高生ボランティアサークル くれよん
(成人式の受付)

臨時会

8月7日(第2回)

◆西川小学校新築工事請負契約を締結

西川小学校(平成24年4月開校)の校舎および体育館新築工事請負契約の締結について、それぞれ賛成多数(賛成7人、反対2人)で次のとおり決まりました。

建築工事

金額 11億6025万円

相手方 (株)高松木材

寒河江市大字島字島東 87番地

電気設備工事

金額 1億3926万4650円

相手方 日本電設工業(株)山形営業所

山形市香澄町一丁目1番1号

機械設備工事

金額 1億6065万円

相手方 弘栄設備工業(株)

山形市北町一丁目7番2号

新築工事は、8月10日に着工、完成予定が平成22年11月30日です。建物は2階建てで延べ床面積は6977㎡(2114坪)。

臨時会ではこのほか、国の経済危機対策に関連して、2億6981万円を追加し、総額を55億4761万円とする一般会計補正予算案を全員賛成で原案のとおり可決しました。



西川小学校新築工事安全祈願祭

町営路線バスの運行状況と課題について、町民税務課長から説明を受けました。

町民税務課長からは「町営路線バスが運行を開始したのが昭和52年7月で、32年間運行している。この間、町立病院等への通院や買い物等での利用者がマイカーの利用に伴い減少し、保育園、小学校および中学校の統合で保育園児と小中学生が利用者の8割を占めている。さらに高校への通学利用者数も安定している。このような状況と平成24年度の西川小学校開校を踏まえ、現在、運行方式等を見直しており、本年度中に結論を出したい。」との説明がありました。

意見交換では、「交通弱者を救うことを前提に、持続的な運行に向けた検討が必要だ。」などの意見が出されました。

9月9日

◆所管事務調査計画

町の財政状況を示す健全化判断比率および資金不足比率、病院事業会計決算の指標について調査することを決定しました。

産業建設常任委員会

7月13日

◆総合産業化調査

総合産業化について、産業振興課長から説明を受けました。産業振興課長からは「全国的に農業等の体験を織り込んだ観光が主流になっているなど、農業、商業、工業を融合させて一つの産業をつくらせている。国でも農商工連携を推進しており、国全体がそういう方向に進む気運にある。本町でも第5次総合計画に掲げている就労の場の確保と所得の向上を図るために異業種が連携した総合産業化を進めており、本年度は、総合産業化への理解を得られるように努めていきたい。」との説明がありました。

意見交換では、「各種団体や町民の方が総合産業化を意識しながら町と協働で取り組んでいかなければ総合産業化は実現しない。そのために、早期に理解を得られるようにPRしていくことが欠かせない。」などの意見が出されました。

総務厚生常任委員会

8月19日

◆町営路線バスの運行状況と課題調査

議会のうごき



産業建設常任委員会所管事務調査
(西川浄化センター)

■8月18日

◆建設水道課で検討している事項調査

建設水道課で検討している町道路線等の見直し、上水道浄水施設の整備計画、吉川地区の排水路の整備計画について、建設水道課長から説明を受けました。町道路線等の見直しについては、「昭和55年に見直し、現在に至っているが、人口の減少や地域の変化等により現状にそぐわない路線がでている。今後、地区の意見を聴きながら、町道を林道や農道に変更するなど、見直していきたい。」との説明がありました。

上水道浄水施設の整備計画については、「クリプトスポリジウム等の病原性原虫対策や水源水量の減少による水不足を解消するために、水沢・小沼地内の浄水施設を平成22年度から整備する予定で、現在、用地の取得や測量等を行っている。」との説明がありました。

公共下水道事業計画の見直しで吉川地区が個別処理区域となったことに伴い整備する排水路については、「現在、地元や関

係機関との話し合いを進めており、12月には工事に入り、平成22年3月の完成をめざしていきたい。」との説明がありました。意見交換を行った後、睦合・石田地内の西川浄化センター（公共下水道終末処理場）を見学しました。

■9月6日

◆請願の審査

9月定例会で付託された請願を審査し、「日米FTA（自由貿易協定）反対、農家経営の危機打開を求める請願書」を継続審査、「政府備蓄米をルールに基づき買入れることを求める請願書」を採択しました。

◆所管事務調査計画

本町議会で採択した町道認定請願の認定状況調査、商工会との意見交換を行うことを決定しました。

広報公聴常任委員会

◆西川町議会だより（70号）の編集

■9月9日（編集会議）

■9月25日（レイアウト）

■10月1日（初校）

■10月6日（二校）

■10月8日（三校）

議会運営委員会

■7月30日

第3回臨時会（8月7日）の運営について決定しました。

■8月25日

第3回9月定例会（9月3日～11日）の運営について決定しました。

行政調査報告

総務厚生、産業建設常任委員会

■7月22日～23日

◆議会基本条例 秋田県藤里町

藤里町議会では、議会基本条例を議員が提案して制定し、議会の条例や規則等の最高規範と位置づけています。平成21年4月1日から施行された条例では議会の基本的な活動を定め、議会活動の公開、町民報告会の開催、一問一答方式、議員相互間の積極的討議、議員研修の充実強化などを規定し、4年ごとに見直すことになっています。

今年7月、議員が2班に分かれ町内7会場で開催した町民報告会には、111人が参加しました。開催にあたり議員間で十分な事前研修を行ったことで、議員の自己研鑽にもつながっているとの話がありました。

本町議会も、町民代表の多数の合議制機関として尚一層町民の意思を町政に反映させるために、議会機能を十分に発揮し、今後とも議会の改革、活性化に取り組み重責を担っていくことが重要です。そのために、議会基本条例や町民報告会実施要綱の制定の実現に向けて検討、協議が欠かせません。

(総務厚生常任委員長

井場 榮治)

◆梅の里づくり 秋田県三種町

県北に位置している三種町は、平成18年3月に3町が合併して誕生した町です。町の名前は、3町を流れている三種川に由来し、人口は、2万438人（平成17年の国勢調査）です。

梅の里づくりは、旧琴丘町が平成3年に4大プロジェクトを立ち上げたなかの一つとして、稲作に代わる転作田と未利用の畑地の有効利用を図るために取り組み始めました。役場に梅課という課を設置し、130haほど植栽しました。しかし、土壌整備をしないまま植栽したために生育が悪く、また、梅ジュースとして製造しても販路拡大が難しく、悪戦苦闘していました。現在では、50haほど栽培していますが、梅の需要が少ないこと、利益が上がらないこと、さらには栽培者の高齢化および後継者不足など多くの課題があります。

説明のために出席された議員も、「事業に取り組むためには十分な事前調査や勉強が必要である。」と話をされていました。（産業建設常任委員長

古澤 俊一）

全員協議会

9月9日

◆西川小学校建設

7月29日に行われた西川小学校の新築工事入札の結果を受けて、実施設計額および請負額の説明が町からありました。

平成21年度と22年度に建設する校舎、体育館および給食室を合わせた実施設計額は、18億3563万円。入札の結果、請負額は14億6016万4650円（13ページの臨時会を参照）となりました。

平成22年度には給食厨房設備の整備、23年度にはプール建設、グラウンド造成や周辺外構工事が予定されています。

◆平成19年度、20年度一般会計継続費精算報告書

平成19年度、20年度の2か年間で施工した西川交流センターあいべ（開発センター）の大規模改修事業（耐震化、老朽化に伴う改修）の経費の精算報告書の説明が町からありました。

2か年間の事業費の総額は4億5553万4334円で、当初計画額と比較すると2646万5666円少ない経費で完成しました。また、必要な経費は、借入金（過疎債）と町の積立金（町有施設整備基金）から充てられました。

◆拠点地形成計画案概要

役場庁舎周辺に計画している拠点地形成計画案概要の説明が町からありました。

町では、第5次総合計画に掲げる定住人口の維持確保、特に若い世代が定着できるようにするために、海味から間沢にかけての役場庁舎周辺に、教育、医療、福祉、保育などの行政サービス機能や金融サービス、商業サービス等が集中する拠点地を形成していく計画です。

拠点地形成のために、新築工事が始まった西川小学校の整備や、現在ある西川せせらぎ住宅団地のほかに新たに住宅地を整備し、あわせて住宅地への誘導策を整備するほか、憩いの空間、交通機能、商業交流機能、除排雪機能などを整備する計画です。住宅地の整備については、現

在のところ、約2万3千㎡（6970坪）の区画に、一般分譲区画と町営住宅区画を合わせて約50区画を整備し、平成24年度から一般分譲する計画です。町営住宅区画には、一般町営住宅のほか高齢者住宅、賃借料を定められた年数支払うことで持ち家となる一戸建長期貸家住宅も検討されています。また、住宅地には、広場や農園を整備し、冬期間は除雪帯としての活用が検討されています。

住宅地への誘導策としては、若い世代を対象に宅地購入代金の分割支払いや助成金の支給、町内建築業者が在来工法で建築した場合の助成、地元製材業者から西山材を購入した場合の助成などが検討されています。

町では本年度、住宅地計画予定地の測量を行い、住宅地全体の詳しい計画を検討する予定です。

◆新型インフルエンザ対策

国内でも流行が心配されている新型インフルエンザ対策の説明が町からありました。

町では、6月9日に対策本部を設置していますが、8月26日

からは、役場や西川交流センターあいべ等の町の施設の玄関に消毒液を設置して予防対策に努めています。

村山地方町議会議員研修会

◆協働のまちづくりが重要

村山地方町議会議長会主催の議員研修会が9月25日、西川交流センターあいべで開催され、本町議会議員全員を含む約100人の議会議員および職員が参加しました。

研修会では、早稲田大学教育・総合科学学術院長の宮口侗迪氏から「今後の地方町村のあり方と国の過疎対策の動向」と題して講演がありました。

宮口氏からは「これまでの過疎対策は、ハコモノ建設批判があるものの、地方町村の集落道の整備などに大きな成果があった。これからは、ハード事業よりもソフト事業が重要になる。ソフト事業を展開するためには、行政と住民が力を合わせ協働して進めていくことが欠かせない。」との話がありました。

山ぶどう栽培

4反歩の転作田で栽培

土田 耕二郎 さん (76歳)
(梅沢第2町内会)



ぶどうを栽培するようになったのは、昭和47年、減反政策がきっかけでした。それまでは4反歩の水田で稲を作っていました。しかし、睦合・山の神という高いところの水田でしたので、親父のときから水不足で大変苦労し、減反を機に4反歩すべてで、ぶどうの栽培を始めました。最初に栽培したのがジューズ専用のコンコードです。10年ほど栽培しましたが、価格が低迷して採算が取れなくなっていたので、ナイヤガラを栽培し、売り歩いたこともありました。

ぶどうとの出会いは昭和63年。青森県から取り寄せた苗、40本を植えました。近隣で栽培している方がいなかったため、当時の農業改良普及所に栽培方法を聞いてもらわず、消毒のやり方を始め何もかも手探りの状態からのスタートでした。あつきの不安な気持ちはいまでも忘れられません。

山ぶどうの原液は、常温保存で何年経過しても変色や腐敗がなく、便秘に効果があると言われています。ジューズやワインとして愛飲されているほか、菓子の原料にも用いられています。栽培するうえで最大の壁は人



工授粉でした。5月25日から30日までの1週間、無風、晴天かつ気温が高い午前10時から午後3時までの間に、雌花と雄花がいっしょに咲くようにしなければなりません。運を天に任せるといったところですが、これかわかるまでどれほどの時間を費やしたことが。また、冬期間の棚の管理には注意を払いました。雪害に強い番線の張り方を工夫したりもしました。

毎年、9月中旬から10月初旬にかけて家内と収穫するときはウキウキします。山ぶどう生産組合の初代組合長を務めさせていただきましたが、今後、町内で生産されたものを一か所に集め、濃縮して販売するなどの販売方法を研究しながら、特産品としての地位確立にがんばっていききたいと思えます。



70号の表紙
若き力を爆発!

西川中学校で8月29日に行われた「体育祭」

全校生徒169人が紅軍、白軍に分かれて、騎馬戦や綱引き、4人5脚などの団体競技と短距離走などの個人競技に若き力を爆発させました。

練習を重ねた両軍の応援合戦も力が入りました。

編集後記

70号、区切りのよい議会だよりをお届けします。

混沌とする世界経済のなか、日本は政権交代という歴史的大変革を迎えました。「改革」の旗印の下での政官の試行錯誤、継続勢力との攻防は、小短時間で協議解決し、国民のための安心政治を貫き、国際的な対処の平和世界をめざしていただきました。

先日、30数年ぶりの小学校同窓会の席で、「ぶらっと田舎に来て、安つすぐ泊まる部屋などあったね。」「んだ。」「都会で精一杯働き終わった友は皆、故郷への大きな愛着を夜長まで語り、再訪交流の手立てを誓うのでした。秋が日々深まります。新型インフルエンザの脅威に十分注意されて、豊穡の好季節をお過ごください。」

(青山 知教)

《発行・編集責任者》

議長 黒坂 久一

《編集委員》

- 委員長 宮林 昌弘
- 副委員長 古澤 俊一
- 委員 青山 知教
- 松田 昌一

議会へのおさそい
皆さん傍聴してみませんか
次回定例会は12月です